自然災害アーカイブの観点から見た COVID-19アーカイブの課題について

東北大学災害科学国際研究所
柴山明寛

本日の発表内容

０. アーカイブの意義について

１. COVID-19と自然災害の対応の違いについて

２. 東日本大震災デジタルアーカイブについて

３.　COVID-19のアーカイブ化の現状と課題

アーカイブの意義について

【アーカイブの意義】
・本事象の記録を残し，後世に伝え残すこと
・記録群から検証を行い，今後の対応・対策に繋げること
・記録（特にローデータ）を研究者個人で囲うのでなく，オープンにし，全世界の科学技術の発展に繋げること

【私の考える最も重要な事項】
　現在の科学技術で知覚すらできていない問題点について，今後の科学技術の発展から明らかになる可能性を残すためにも，詳細な記録を後世に残すことが必要と考える.

Difference between COVID-19 and natural disaster

Difference between COVID-19 and natural disaster

	自然災害	COVID-19
規模	被災地域は，海外まで波及する災害も一部あるが，それ以外は日本国内の限定地域である.	全世界
国民の知識	地震，風水害は毎年何かしらの自然災害が発生しており，日本国民のほとんどは知識を有している．ただし，原発災害は，知識が無かったことから混乱を招いた	事前知識はほぼゼロ
事前の防災・防疫	自治体の地域防災計画や企業のBCP計画を策定，さらに国土強靱化等でハード面の防災もある程度進んでいる．法律等の整備も充実している.	パンデミック対応を考えていた一部の自治体や企業等があった. 法律の整備やガイドライン整備をしているのが少ない.
事後の減災・防疫	災害リスクが高いところから避難を行えば，二次災害による被災することは無い.	避難する場所は無く，防疫方法も確立していない.
人的等の被災地支援	各省庁からのリエゾン派遣や日本全国からボランティア支援，海外支援など充実	感染拡大を懸念して人的支援がほとんど無い．また，日本全国が人手不足になり，対応できる人員がいない

Difference between COVID-19 and natural disaster

1900年以降の自然災害の死者・行方不明者とCOVID-19の死者数との比較

	自然災害	COVID-19
地震（国内）	・関東大震災（1923年） 死者・行方不明者：約14万人	国内死者数：820名 全世界死者数：341,039名 （厚生労働省：令和2年5月24日）
地震（海外）	・スマトラ沖地震（2004年） 死者・行方不明者：約22万人 ・唐山（とうざん）地震（1976年） 死者・行方不明者：約24万人	
風水害（国内）	・伊勢湾台風（1959年） 死者・行方不明者：約5000人	
風水害（海外）	・中国大洪水（1931年） 死者・行方不明者：約370万人 ※死者数は，諸説あり	

令和元年版 防災白書　附属資料23　1900年以降の世界の主な自然災害の状況
http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h31/honbun/3b_6s_23_00.html
新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について（令和２年５月24日版)
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_11471.html

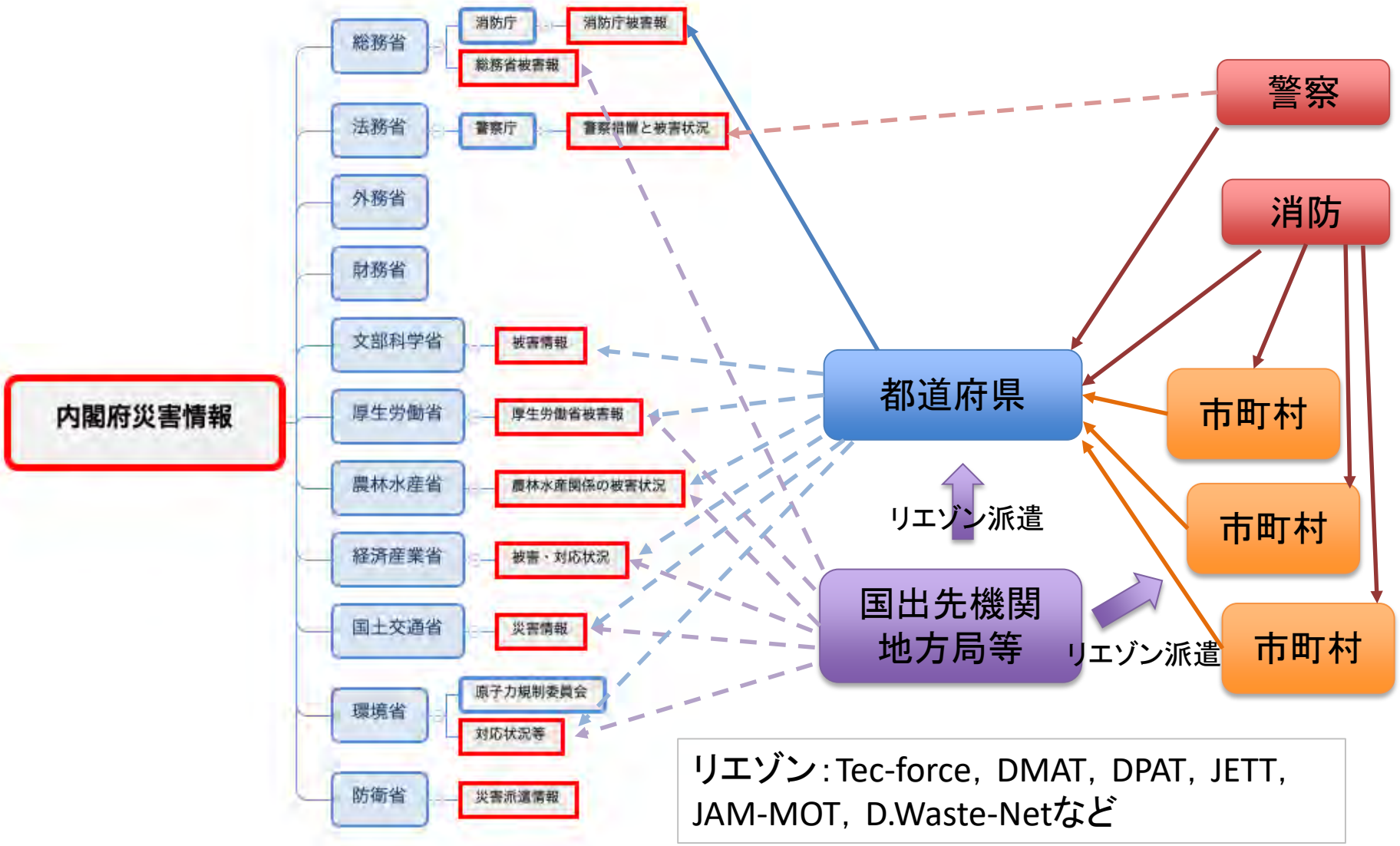
Difference between COVID-19 and natural disaster

東日本大震災とCOVID-19の被害額や予算等の比較

	東日本大震災	COVID-19
被害額	16兆9000億円（内閣府推定）	不明
対応予算	約35兆円（※1）	48.4兆円（※2）
その他	復興特別所得税 約10兆5000億円を予定 平成25年から平成49年 復興特別所得税額＝基準所得税額×2.1%	

※1　平成23から30年度までの執行見込額（復興庁）
https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat7/sub-cat7-2-1/201908_Pamphlet_fukko-jokyo-torikumi.pdf
※2新型コロナウイルス感染症緊急経済対策～国民の命と生活を守り抜き、経済再生へ～（令和２年４月７日、令和２年４月20日変更）
https://www5.cao.go.jp/keizai1/keizaitaisaku/keizaitaisaku.html

自然災害時の情報収集の流れ



情報収集の流れは，複雑ではあるが内閣府災害情報を見れば全てがわかる

自然災害時の情報収集の流れ（内閣府災害情報）

2　人的・物的被害の状況（消防庁情報：10 月 20 日 12:45 現在）

都道府県名	人的被害					住家被害					非住家被害	
	死者	行方不明者	負傷者			全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	公共建物	その他
			重傷	軽傷	程度不明							
	人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟
北海道								3				1
青森県				1				1	6	6		
岩手県	2		5	3		18	311	658	388	728	19	395
宮城県	13	6	4	26		1	1	20	2,539	2,669	2	1
秋田県								8		1		
山形県			2	1				34	78	80		8
福島県	29	1	2	42		10	211	215	5,646	1,054	71	348
茨城県	2	1		17		44	280	128	1,669	928		
栃木県	4		2	20		1		17	9,703	8,964		
群馬県	4			7		9	8	17	309	384	0	7
埼玉県	2		1	29		6	7	72	1,858	2,287		
千葉県	1		1	22		9	25	736	16	54		10
東京都				10		5	2	143	1,132	284	18	11
神奈川県	7	2	1	36		9	9	386	36	76	35	71
新潟県			2	3		1		22	45	249		5
富山県			1							1		
石川県			1					1				
福井県			1									
山梨県				1		2	1	3		3		3
長野県	3	1	3	104		4	5	71	5,551	3,663		
岐阜県								11			7	9
静岡県	1	1	2	5		3	4	125	964	1,636	52	185
愛知県				1								
三重県				3					42	30		1
滋賀県				3				1				
京都府			1	3				1				
大阪府				8								
兵庫県				15				1				
奈良県										3		
和歌山県								1				
鳥取県				1				3				5
岡山県				1				1				
広島県				2				2				
山口県			1									
徳島県				1								
高知県				2				1		3		3
佐賀県				2								
大分県				2								
合　計	68	12	30	371		122	864	2,682	29,982	23,103	204	1,063

※その他、連絡が取れない者の情報有り

住家被害				
全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
棟	棟	棟	棟	棟
		3		
		1	6	6
18	311	658	388	728
1	1	20	2,539	2,669
		8		1
		34	78	80
10	211	215	5,646	1,054
44	280	128	1,669	928

被害情報の変更があった場合は，下線が引かれて，前回の被害報との違いがわかりやすく表記される．各省庁ほぼ同じ対応となっている

令和元年台風第19号に係る被害状況等について（10月20日12:45現在）

自然災害時の情報収集の流れ（内閣府災害情報）

各省庁の災害情報には，クロノロジーが記載されているので対応中や遅延などがある程度わかる

令和元年台風第19号に係る被害状況等について（10月20日12:45現在）

- 長野県より内閣府支援物資チームを通じて、長野市にある健康レクリエーションセンターへマスク 2,000 枚、うがい薬 100 個を供給するよう要請があり、日本衛生材料工業連合会（マスク 2,000 枚）及び日本医薬品卸売業連合会（うがい薬 100 個）に対応を依頼（マスク 20 日到着予定）（うがい薬 19 日到着済み）。
- 栃木県より内閣府支援物資チームを通じて、栃木県庁にマスク 3,600 枚を供給するよう要請があり、日本衛生材料工業連合会に対応を依頼（21 日到着予定）。
- 福島県より内閣府支援物資チームを通じて、郡山市にある株式会社Ｐラインに子供用マスク 300 枚を供給するよう要請があり、日本衛生材料工業連合会に対応を依頼。（10/19）

厚生労働省も5月から配布状況を公開（5月26日現在）

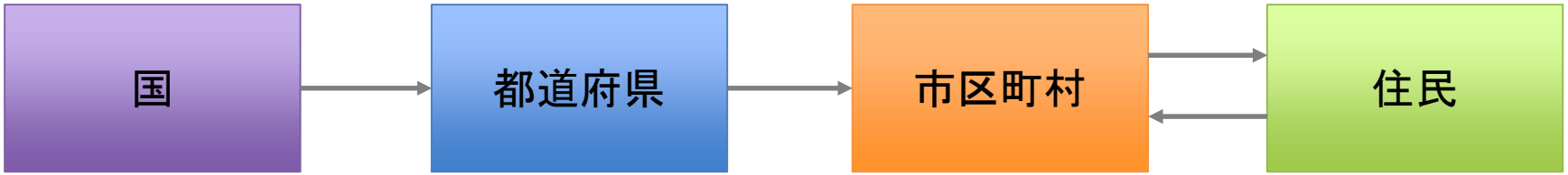
医療機関に対する政府確保分のマスク等の医療用物資の配布状況及び今後の配布予定

医療機関に対する政府確保分のマスク等の医療用物資の配布状況及び今後の配布予定について、掲載しています。

- 医療機関に対する政府確保分のマスク等の医療用物資の配布状況及び今後の配布予定（５月１日掲載分）
- 医療機関に対する政府確保分のマスク等の医療用物資の配布状況及び今後の配布予定（５月８日掲載分）
- 医療機関に対する政府確保分のマスク等の医療用物資の配布状況及び今後の配布予定（５月１５日掲載分）
- 医療機関に対する政府確保分のマスク等の医療用物資の配布状況及び今後の配布予定（５月２２日掲載分） NEW

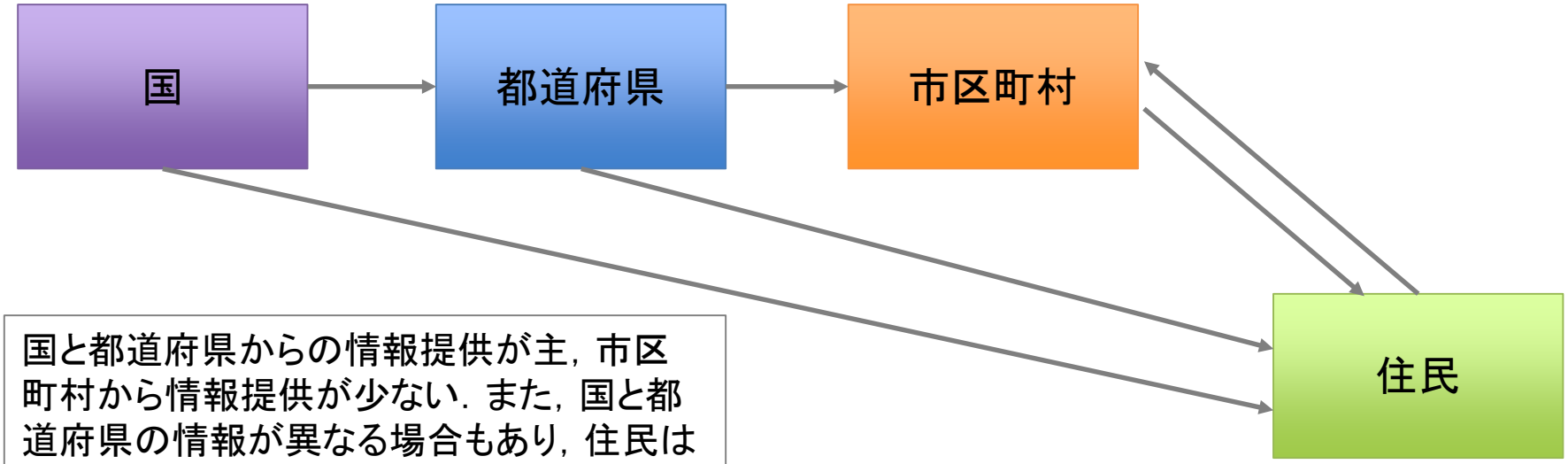
住民への情報伝達等について

自然災害時の場合



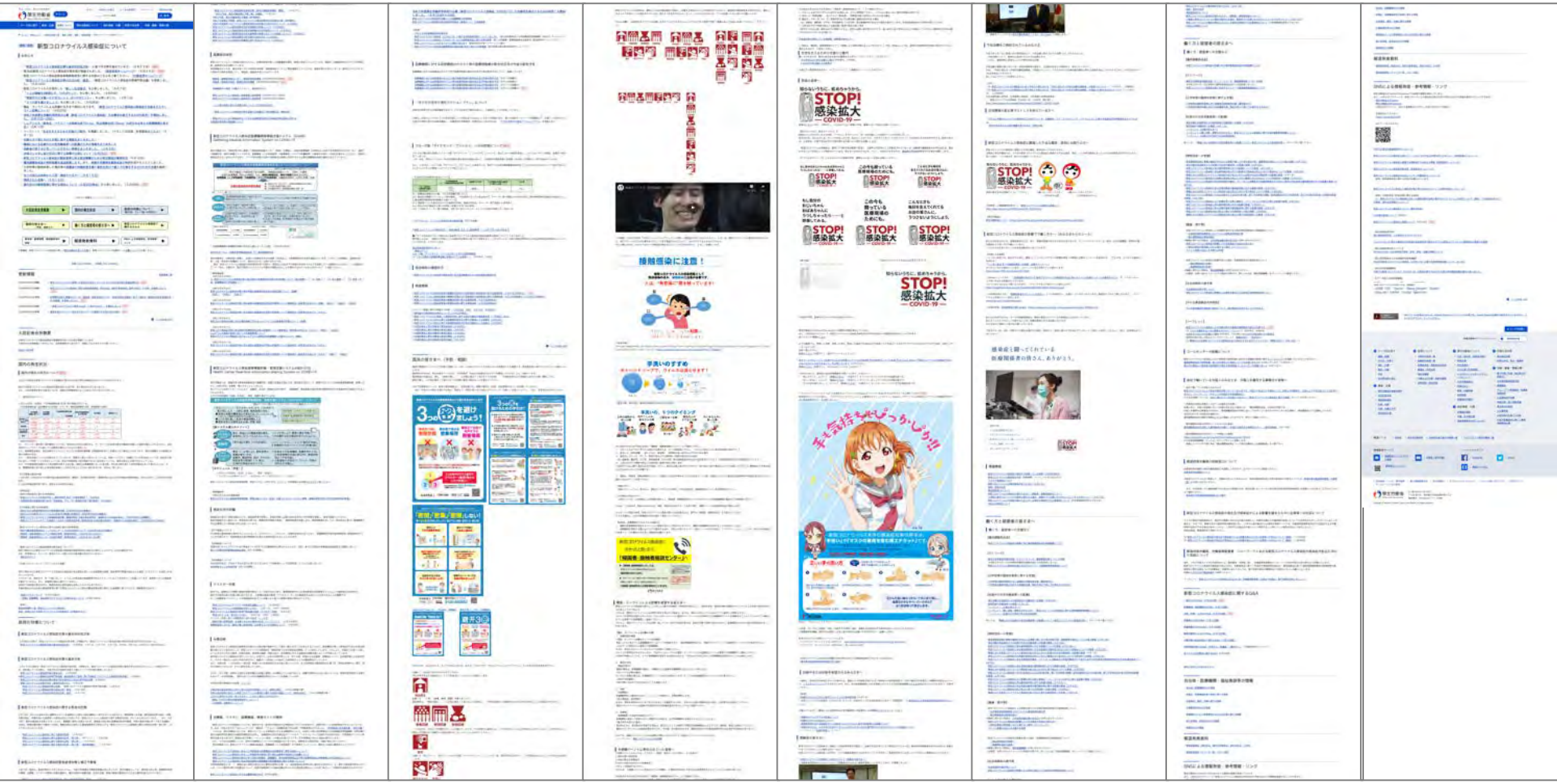
被災者は，市区町村から情報伝達が行われ，窓口も基本は市区町村にある．国や都道府県からの情報伝達等は，直接住民にはほとんど行われない．

COVID-19の場合



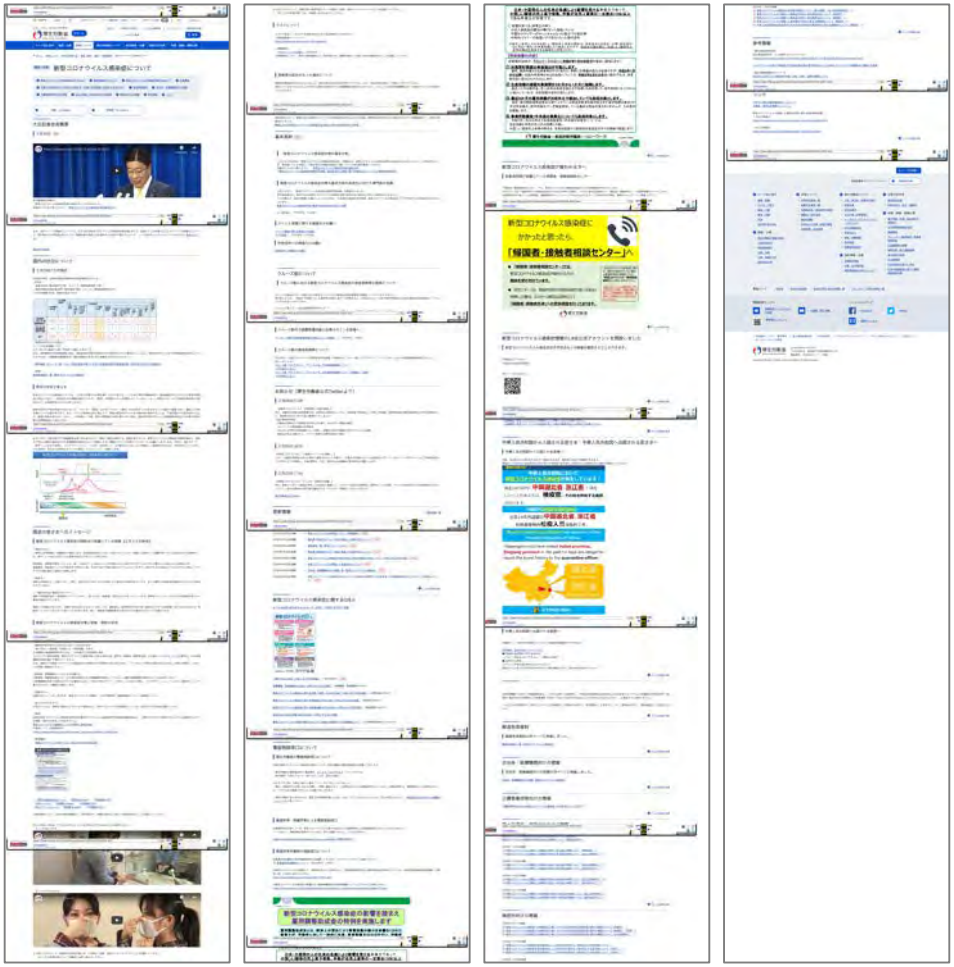
国と都道府県からの情報提供が主，市区町村から情報提供が少ない．また，国と都道府県の情報が異なる場合もあり，住民は混乱．

厚生労働省のウェブページ（5月26日現在）



厚生労働省：https://www.mhlw.go.jp/index.html

厚生労働省のウェブページ（3月1日現在）



3月1日時点
約1万2000文字

5月26日時点
約2万8000文字

厚生労働省：https://www.mhlw.go.jp/index.html

住民やメディアからの情報提供等について（地震災害）

○メディア報道に関して

・専門家からの情報発信の課題

専門家の取材も連絡を取れたところからニュース報道されるため，専門以外のコメントで混乱を招くことがある（大規模になればなるほどその傾向が強い．ただし，この頃，専門家が固定されてきているのでその心配は少ない）

・災害規模の誤認識の誘発

災害時には，被害が甚大な場所しか撮影をしないため，一般の方は被害の大きさを誤って認識することが多い

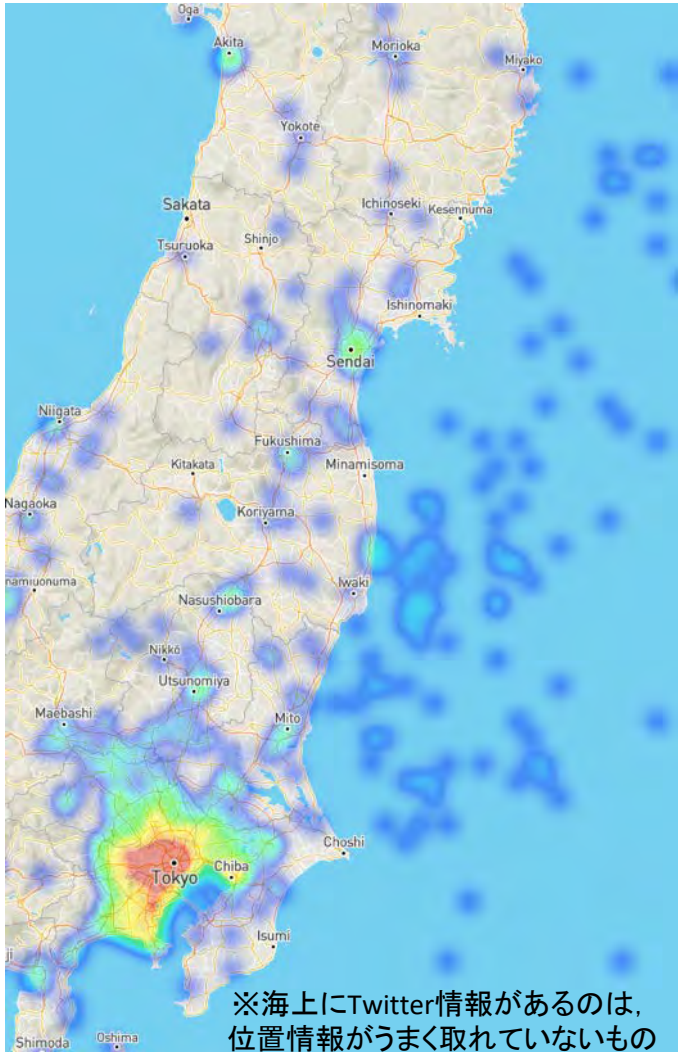
○Twitter情報について

・デマの拡散（不安や善意など）

2016年熊本地震「動物園からライオンが逃げ出した」などが拡散され混乱を招いた．

・情報空白域の存在

大規模災害時には，通信回線の不通・輻輳，停電などにより情報が発信できないことが多く，情報が少ないところほど，甚大な被害になっている可能性が高い．



Twitter情報（2011/3/11-12）
日本災害アーカイブ（ハーバード大）

新聞記事比較

朝日新聞（地方版を含めての検索）

	キーワード	1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	4ヶ月目	5ヶ月目
COVID-19	コロナ	259	2,019	6,627	10,797	7,712
東日本大震災	地震	2,443	2,105	1,357	1,145	684
	原発	2,141	3,323	2,753	3,047	2,509

※COVID-19：2020年1月1日～2020年5月25日
※東日本大震災：2011年3月11日～2020年7月31日

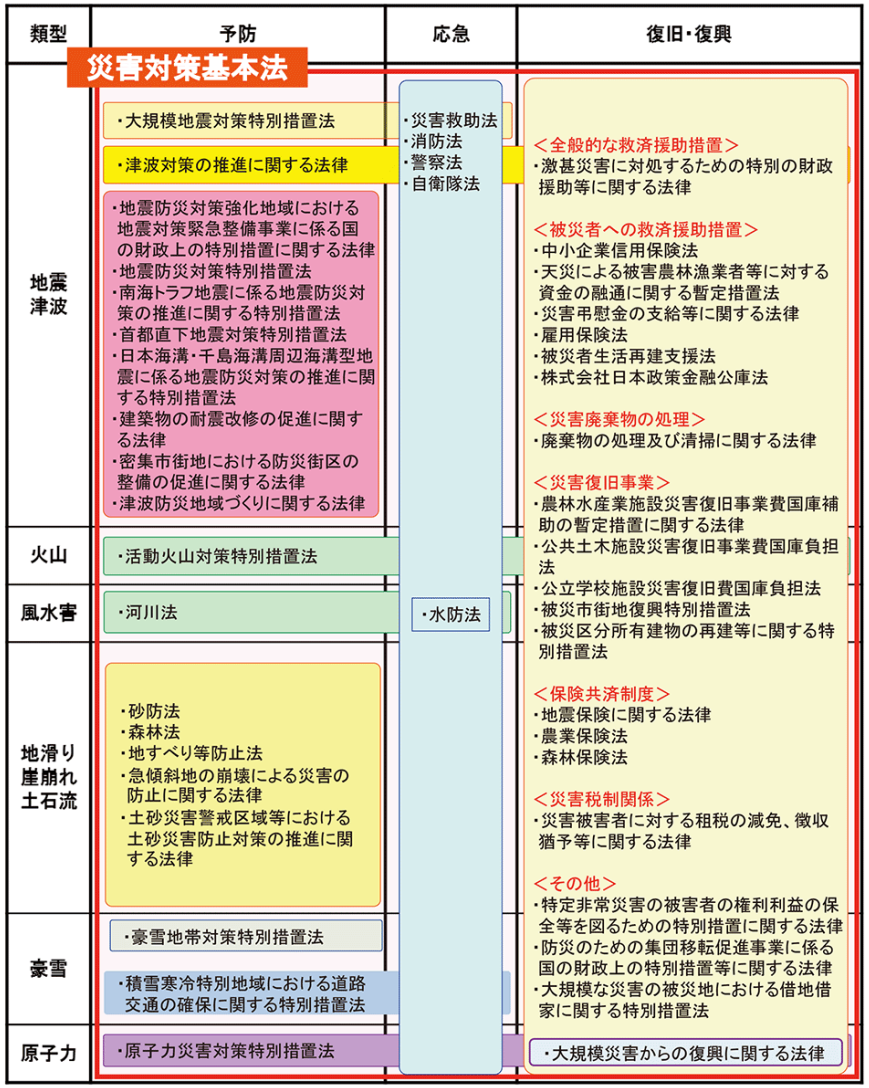
読売新聞（地方版を含めての検索）

	キーワード	1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	4ヶ月目	5ヶ月目
COVID-19	コロナ	494	3,044	8,352	13,008	10,112
東日本大震災	地震	6,319	2,234	1,175	1,065	706
	原発	1,624	4,372	1,938	2,117	1,827

※COVID-19：2020年1月1日～2020年5月24日
※東日本大震災：2011年3月11日～2020年7月31日

自然災害とCOVID-19の関連法の違いについて

自然災害の法律関係



出典：内閣府資料

COVID-19の法律関係

- 感染症法
- 検疫法
- 新型インフルエンザ等対策特別措置法
- 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

〇災害対策基本法（昭和36年，1961年）

- 伊勢湾台風を契機に制定.
- 風水害や地震災害（阪神淡路大震災や東日本大震災）が起こる度に，関連法案が逐次修正が行われている.
- 災害救助法はさらに古く昭和22年に制定

〇感染症法（平成10年，1998年）

IRIDeS
International Research Institute of Disaster Science

みちのく震録伝
東北大学アーカイブプロジェクト

The Digital Archives of the Great East Japan Earthquake

7 Principles for the Reconstruction Framework

Towards Reconstruction～Hope beyond the disaster
(25-Jun.2011 Reconstruction Design Council)

【Principle1】

For us, the surviving, there is no other starting point for the path to recovery than to remember and honor the many lives that have been lost.

Accordingly, we shall record the disaster for eternity, including through the creation of memorial forests and monuments, and we shall have the disaster scientifically analyzed by a broad range of scholars to draw lessons that will be shared with the world and passed down to posterity.

http://www.cas.go.jp/jp/fukkou/

Significance of Disaster Archives

About the disaster archive of the GEJE

Digital Archive

SNS

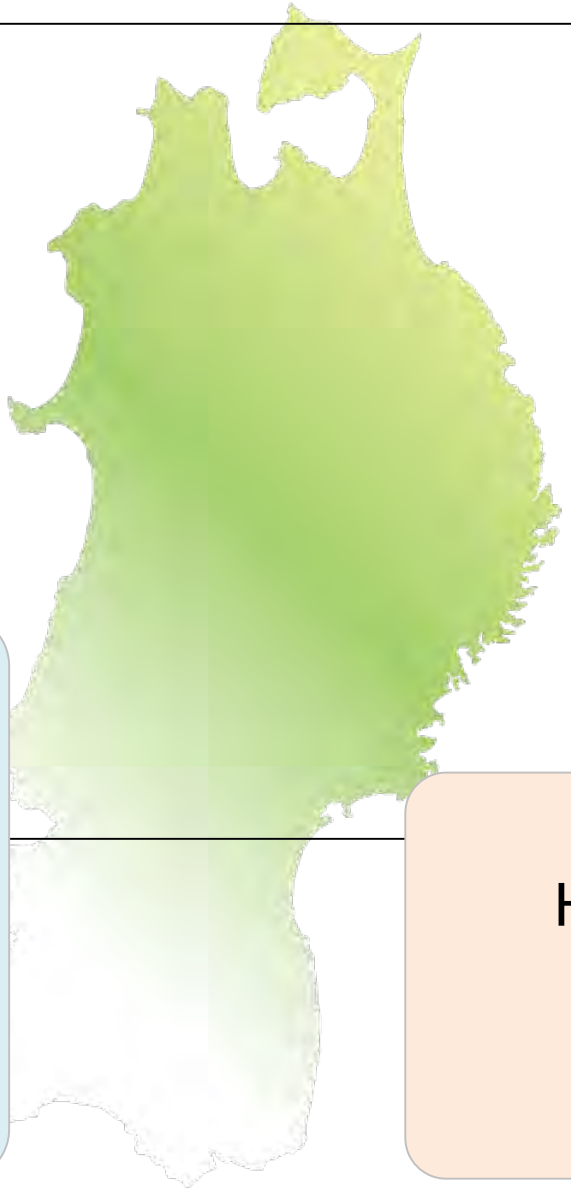
Photographs

Video data

Voice data

Research data

Digital documents



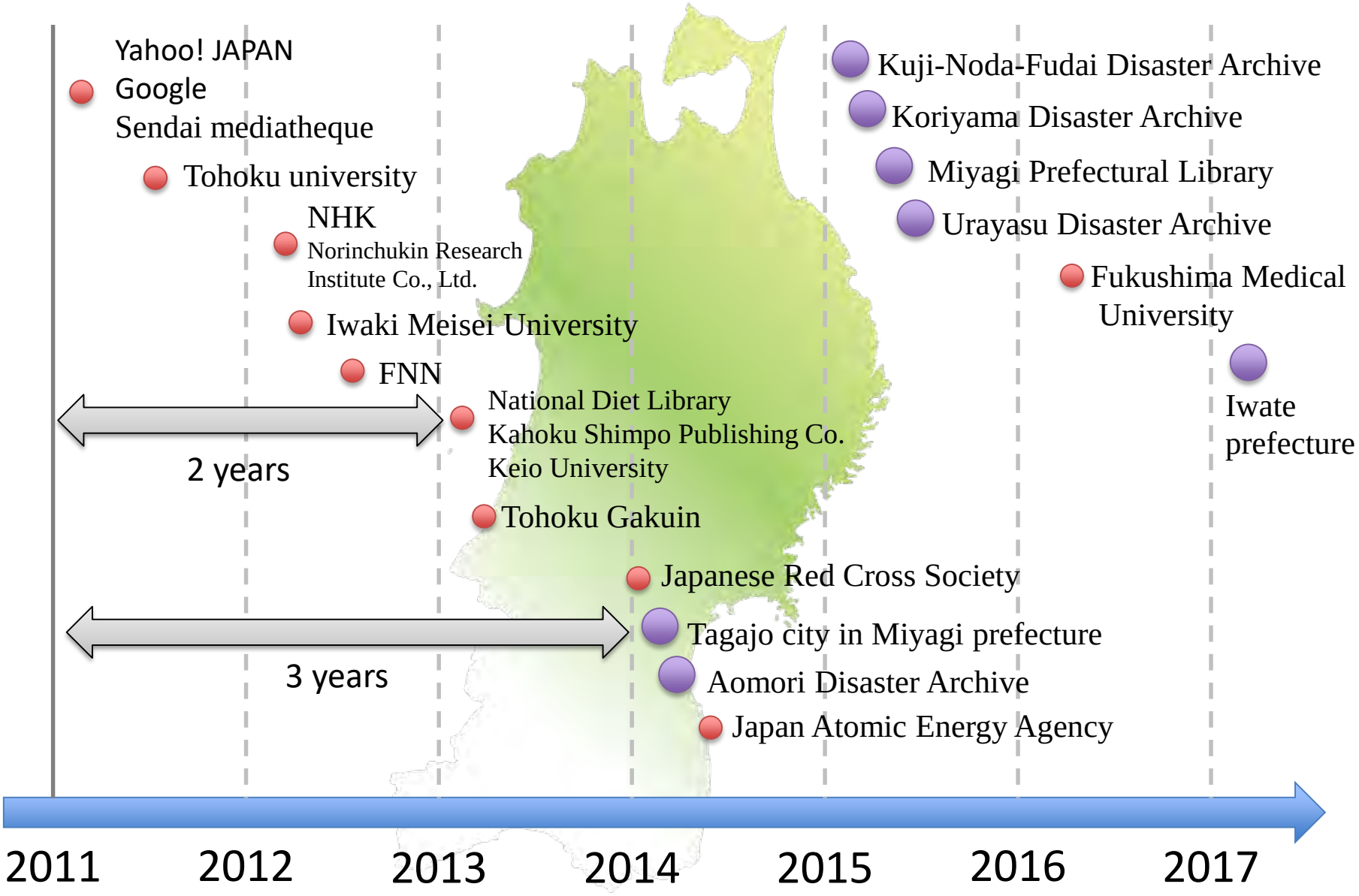
Publication Archive

Analogue documents

Handles relics and physical remains Archive

About the disaster archive of the GEJE

Release date of Major disaster archive of the GEJE



Major disaster archive of the GEJE (2017)

Date	Site Name (Names of institutions)	Number of contents
June, 2011	East Japan Earthquake Picture Project (Yahoo! JAPAN)	64,993
June, 2011	Memories for the Future (Google)	62,662
June, 2011	Center for Remembering 3.11 (Sendai mediatheque)	1,232
September, 2011	Michinoku Shinrokuden (Tohoku university)	125,531
March, 2012	Great East Japan Earthquake Archives (NHK)	1,803
March, 2012	Archives of agricultural, fishery and forestry cooperative organizations' activities for the restoration from the Great East Japan Earthquake (Norinchukin Research Institute Co., Ltd.)	4,251
April, 2012	Memories of Hamadoori: Disaster Archive for the future (Iwaki Meisei University)	299
September,2012	Remembering 3/11(FNN)	69
March, 2013	KAHOKU SHIMPO DISASTERS ARCHIVE (Kahoku Shimpo Publishing Co.)	127,098
March, 2013	The Great East Japan Earthquake Archives Fukushima (Keio University)	18,795
May, 2013	Remembering 3.11 (Tohoku Gakuin)	8,786
January, 2014	Red Cross Nuclear Disaster Resource Center Digital Archives (Japanese Red Cross Society)	1,054
March, 2014	Tagajo kenbunoku (Tagajo city in Miyagi prefecture)	24,519
April, 2014	Aomori Disaster Archive (Hachinohe City, Misawa City, Oirase Town and Hashikami Town in Aomori Prefecture)	93,514
June, 2014	Fukushima Nuclear Accident Archive (Japan Atomic Energy Agency)	112,824
March, 2015	Kuji-Noda-Fudai Disaster Archive (Kuji City, Noda Village and Fudai Village in Iwate Prefecture)	127,415
April, 2015	Koriyama Disaster Archive (Koriyama City, Tomioka Town, Futaba Town and Kawauchi Village in Fukushima Prefecture)	49,901
June, 2015	Great East Japan Earthquake Archive Miyagi (Miyagi Prefectural Library)	222,291
July, 2015	Urayasu Disaster Archive (Urayasu City in Chiba Prefecture)	34,241
February, 2016	Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey digital archive (Fukushima Medical University Radiation Medical Science Center)	1,881
March, 2017	Iwate Earthquake Tsunami Archive "Hope" (Iwate prefecture)	236,498

Types of Major Disaster Digital Archives

IT

Yahoo! JAPAN
Google

Media

NHK(Japan Broadcasting Corporation)
FNN(Fuji News Network)
Kahoku Shimpo Publishing Co.

Education and Research

Tohoku University
Iwaki Meisei University
Keio University
Tohoku Gakuin
Fukushima Medical University
Japan Atomic Energy Agency

Other

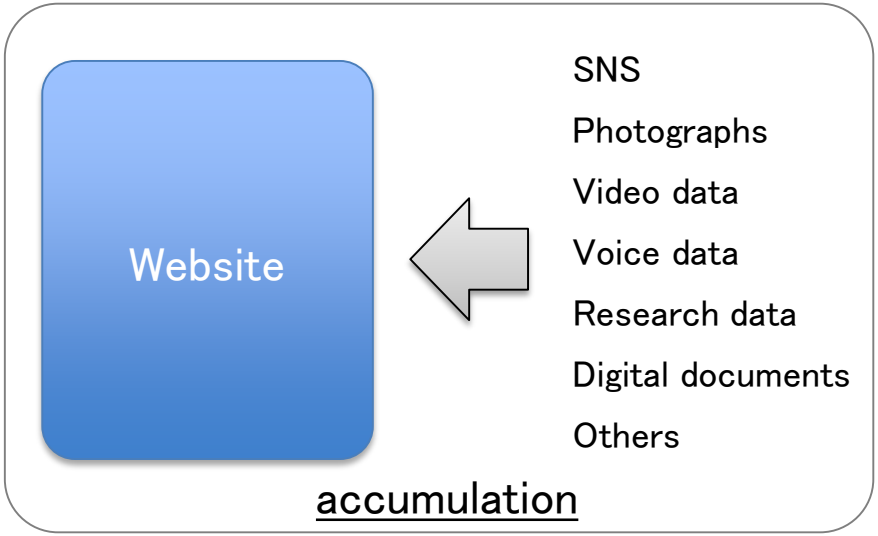
Norinchukin Research Institute Co., Ltd.
Japanese Red Cross Society

Administrative Organizations

National Diet Library, Iwate Prefecture, Miyagi Prefectural Library
Tagajo City in Miyagi Prefecture
Hachinohe City, Misawa City, Oirase Town and Hashikami Town in Aomori Prefecture
Kuji City, Noda Village and Fudai Village in Iwate Prefecture
Koriyama City, Tomioka Town, Futaba Town and Kawauchi Village in Fukushima Prefecture, Urayasu City in Chiba Prefecture, Sendai Mediatheque

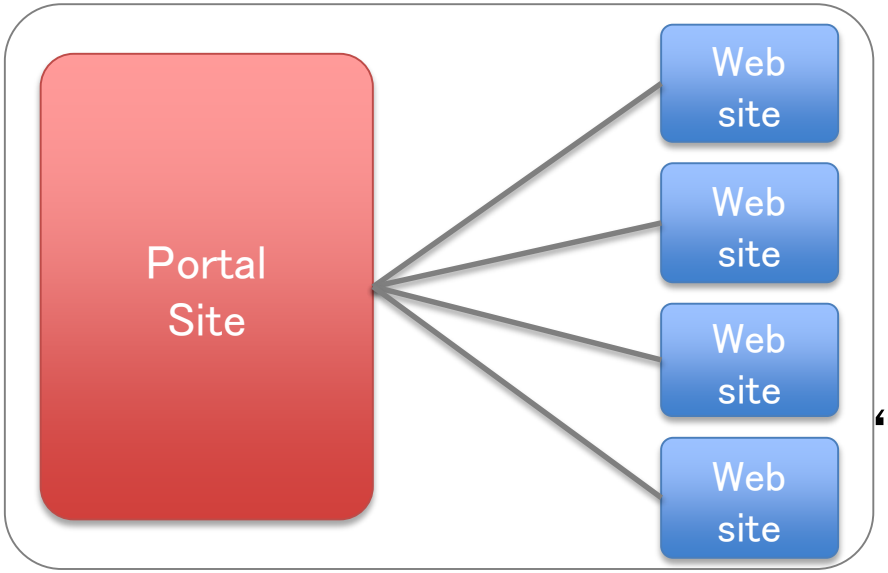
Website types of digital archives

Digital Archive Site



- IT Group
- Media Group
- Education and Research Group
- Administration Group
- Others

Portal Site



National Diet Library in Japan
"Hinagiku"

Harvard University
"Japan Disaster Archive"

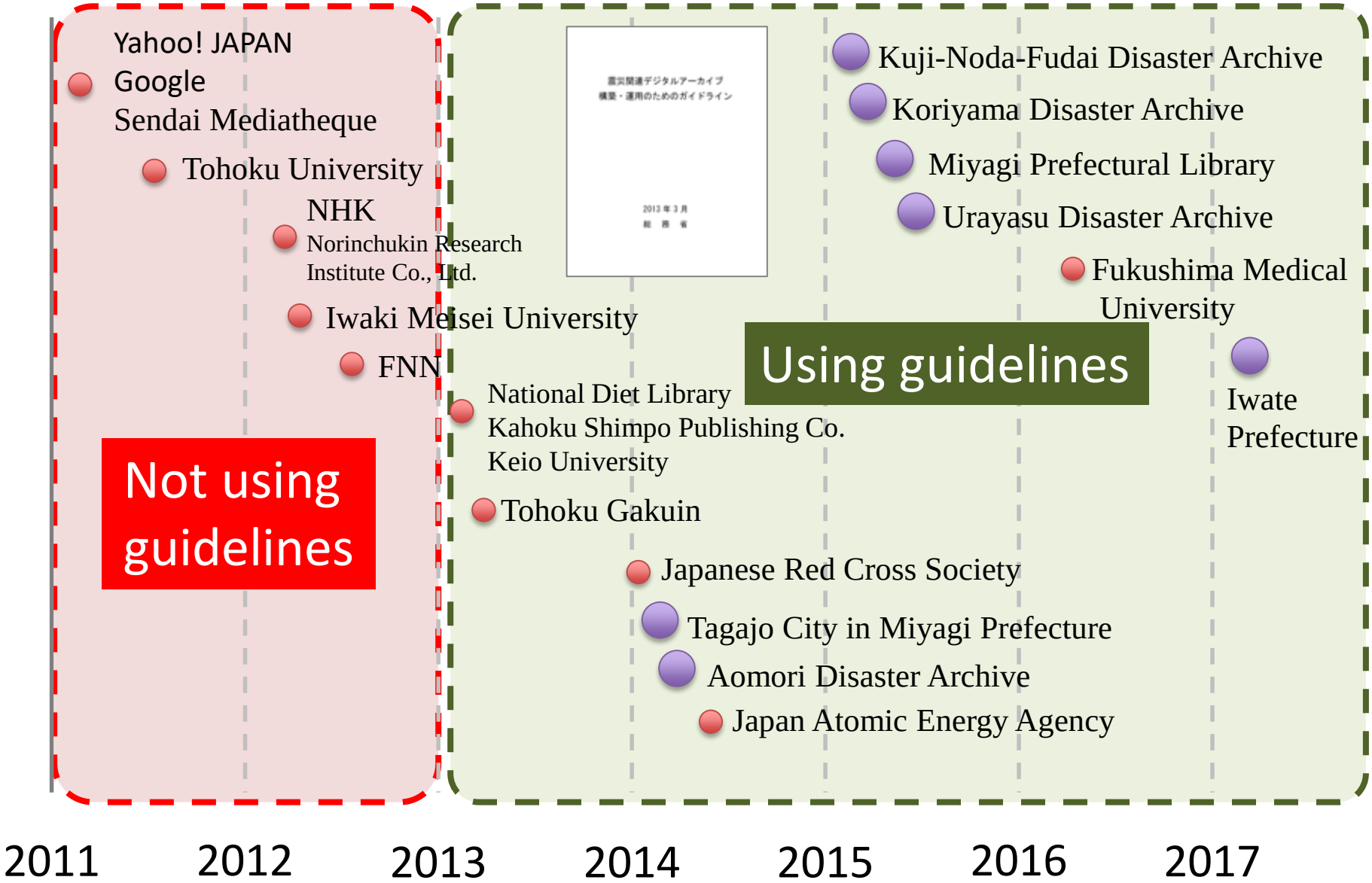
Disaster Archive Guidelines

Guidelines for the Building and Operation of the Digital Archives of the Great East Japan Earthquake Disaster (Japanese Only)

Publication Date: March 2013

http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictriyou/02ryutsu02_03000114.html

Disaster Archive Guidelines



Metadata schemes

Metadata Schema of the Great East Japan Earthquake Archive of the National Diet Library

Setting Help Language English Character size Inverse display

National Diet Library Great East Japan Earthquake Archive

Main page > —Metadata

—Metadata

The National Diet Library Great East Japan Earthquake Archive Metadata Schema

To organize the digital materials, such as videos and photos, the National Diet Library Great East Japan Earthquake Archive Metadata Schema (Metadata Schema) used for the National Diet Library Great East Japan Earthquake Archive (HINAGIKU) was based on "The National Diet Library Dublin Core Metadata Description (DC-NDL)."
Although there are some exceptions, metadata of materials on the earthquake disaster can be obtained in Metadata Schema format from the RDF/XML link on the metadata details page of each material. Metadata can also be acquired in batches by using the Application Programming Interface (API).

- The National Diet Library Great East Japan Earthquake Archive Metadata Schema (Ver. Oct. 2016)

History of the National Diet Library Great East Japan Earthquake Archive Metadata Schema, Ver. 1.0

- April 2013: The National Diet Library Great East Japan Earthquake Archive Metadata Schema, Ver. Mar. 2013, is published in Japanese.
- September 2014: Ver. Sep. 2014 is published. This is an update of Ver. Mar. 2013, containing corrections of typographical errors and omissions, and available in both Japanese and English.
- October 2016: Ver. Oct. 2016 is published. This is an update of Ver. Sep. 2014, available in both Japanese and English.

About NDL the Great East Japan Earthquake Archive

1 Great East Japan Earthquake Archive Project
— Collection of records
— Chronology (History)
— Brochure
2 About the National Diet Library Great East Japan Earthquake Archive (Nickname: HINAGIKU)
— The list of searchable databases and others
— Material types
— Translation function
— Restrictions
—Data and services from organizations other than the National Diet Library
—Help
3 Great East Japan Earthquake recovery measures

NDL:http://kn.ndl.go.jp/static/metadata?language=en

Costs of building a Disaster Archive

Costs per uploaded item

	JPY	US$
A	1,401 yen	US$ 12.36
B	1,978 yen	US$ 17.45
C	1,892 yen	US$ 16.69
D	2,904 yen	US$ 25.62
E	2,056 yen	US$ 18.14
F	2,470 yen	US$ 21.79
G	4,774 yen	US$ 42.11

JPY 1,400 – 2,500

(US$ 12 – 22)

This amount includes expenses for:

- Collection
- Receipts
- Rights for public disclosure and secondary usage
- Categorisation and organisation
- Creation of metadata
- Paper materials
- Registration in databases
- Creating a publishing system of the contents
- Operation and maintenance expenses

IRIDeS
International Research Institute of Disaster Science

みちのく震録伝
東北大学アーカイブプロジェクト

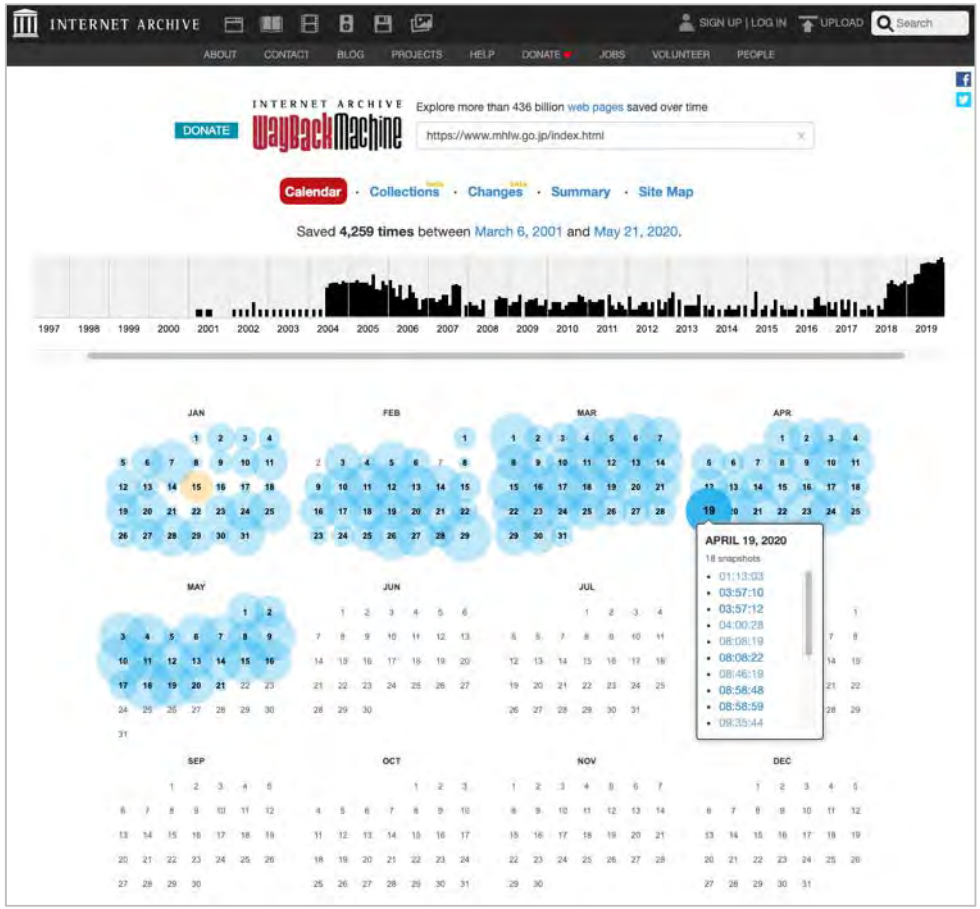
COVID-19 Digital Archive

Internet Archiveの状況

Internet Archiveと国際インターネット保存コンソーシア（IIPC）が協力してウェブ上の情報をアーカイブ化（2020/2/13）

<u>優先度が高いコンテンツ</u>

- Coronavirus origins
  （コロナウイルスの起源）
- Information about the spread of infection
  （感染の広がりに関する情報）
- Regional or local containment efforts
  （地域の感染症封じ込めの活動）
- Medical/Scientific aspects
  （医学・科学的側面）
- Social aspects （社会的側面）
- Economic aspects（経済的側面）
- Political aspects（政治的側面）



厚生労働省HPのスナップショットの状況

参考資料：http://blog.archive.org/2020/02/13/archiving-information-on-the-novel-coronavirus-covid-19/

国立国会図書館WARPの状況

検索キーワード「新型コロナウィルス」
:約270万件
検索キーワード「東日本大震災」
:約8700万件

収集頻度

コレクション名	頻度
国の機関	毎月(年12回)
都道府県	四半期ごと(年4回)
政令指定都市	四半期ごと(年4回)
市町村	四半期ごと(年4回)
独立行政法人等	四半期ごと(年4回)
大学	四半期ごと(年4回)
電子雑誌	刊行頻度に合わせる
イベント	随時

WARPのトップ画面

国立国会図書館WARP：https://warp.ndl.go.jp/

カレントアウェアネス・ポータルの記事まとめ

国立国会図書館が運営する図書館関係に関する情報ポータルサイト
COVID-19とデジタルアーカイブに関するもののみを抜き出し

・オーストラリア国立図書館（NLA）、新型コロナウイルス感染症関係のエフェメラを収集中
・中国国家図書館、中国における「新型コロナウイルス感染症との戦い」に関する資料のアーカイブ構築計画を発表
・ウェールズ国立図書館（NLW）、新型コロナウイルス感染症がウェールズ社会に与えた影響の記録を収集するためのキャンペーンを実施中
・アイルランド国立図書館（NLI）、新型コロナウイルス感染症拡大に関するアイルランドのウェブサイトのアーカイブ事業を実施中
・国際公文書館会議（ICA）、新型コロナウイルス感染症流行下における意思決定の文書化等を求める声明を公表
・ニュージーランド国立図書館（NLNZ）、新型コロナウイルス感染拡大下の生活を記録化する方法を紹介：記録の寄贈も呼びかけ
・国際パブリックヒストリー連盟（IFPH）、世界各国の新型コロナウイルス感染症に関する記録収集の取り組みをGoogleマップへマッピングするプロジェクトを実施中
・国立国会図書館、リサーチ・ナビにコンテンツ「新型コロナウイルスに関する主な新聞社ウェブサイトの特集ページまとめ」「新型コロナウィルスに関するウェブサイト集」を掲載
・関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）、関西大学デジタルアーカイブANNEXで「コロナアーカイブ＠関西大学」を開始：新型コロナウイルスの影響を受けている関西大学の構成員の日々の記録と記憶を保存・公開
・ルクセンブルク大学近代デジタル歴史ルクセンブルクセンター、新型コロナウイルス感染拡大下の生活に関する写真・動画等の投稿が可能なプラットフォーム“COVID-19 memories”を開設
・ニュージーランド国立図書館（NLNZ）による新型コロナウイルス感染拡大下のオンライン情報収集の取組：政府サイト・新聞記事・ブログ・Twitter等
・新型コロナウイルス流行下の社会の記憶を収集・アーカイブするプロジェクト“coronarchiv”（ドイツ）
・新型コロナウイルス流行下における地域の経験を記録する：デジタルアーカイブ作成の取組（米国）
・国際インターネット保存コンソーシアム（IIPC）、新型コロナウイルス感染症に関するウェブアーカイブ“Novel Coronavirus (COVID-19) ”を公開
・韓国国立中央図書館（NLK）、新型コロナウイルス感染症に関するウェブアーカイブを公開へ：国際インターネット保存コンソーシアム（IIPC）による同感染症のウェブアーカイブプロジェクトにも参加
・中国の博物館・図書館が「新型コロナウイルスとの闘い」に関する資料を収集中：行政資料や医療従事者の日記など
・Internet Archive（IA）と国際インターネット保存コンソーシアム（IIPC）、「新型コロナウイルス感染症」の拡大に関するウェブ上の公開情報源のアーカイブ化を実施中

カレントアウェアネス・ポータル：https://current.ndl.go.jp/

海外のCOVID-19のデジタルアーカイブの例

ルクセンブルク大学近代デジタル歴史ルクセンブルクセンター
https://covidmemory.lu/introduction

韓国国立中央図書館
http://www.oasis.go.kr/

デジタルアーカイブ学会の活動状況

COVID-19 に関するアーカイブ活動の呼びかけ

デジタルアーカイブ学会
Japan Society for Digital Archive

デジタルアーカイブ学会

本学会について ▾ 学会賞 ▾ デジタルアーカイブ学会誌 ▾ 研究大会 ▾ 出版 ▾ シンポジウム ▾ 定例研究会 ▾ 部会・支部・SIG ▾ ニュース 入会案内 お問合せとご連絡 ENGLISH

学会ニュース

COVID-19 に関するアーカイブ活動の呼びかけ (SIG 新型コロナウイルス感染症に関するデジタルアーカイブ研究会)

2020/5/10 JSDA

関係各位

2020 年5月7日

「COVID -19に関するアーカイブ活動の呼びかけ」

新型コロナウイルス感染症に関するデジタルアーカイブ研究会

現在、新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の感染拡大を受けて、社会の各層でさまざまな取り組みが行われています。

あらゆる点において、最も尊重されるのは人命であり、人命を守る医療の維持であることは言うまでもありません。

しかし、COVID-19に向き合うためには、感染症の実相や社会のありさまを正確に記録することも欠かせません。事実、今回のCOVID-19禍において、私たちはこれまでの疫病の歴史、たとえば約100年前のパンデミック「スペインかぜ」の記録などからまなべる点は多々あるはずです。

しかし今回、過去の疫病の教訓が十分に生かされているとは言えません。今後の社会においてCOVID-19と相対していくためには、歴史に残るであろう現在の社会の状況を、仔細に記録していくことが肝要です。

そこで私たちは、図書館・博物館・自治体・大学・産業など、社会状況の記録に関心を持つみなさんに向けて、いま社会が直面しているCOVID-19に関する「アーカイブ活動の推進」を提案します。たとえば、次のような取り組みが考えられるでしょう。

* 市民による情報の収集活動を、十分に安全を確保することに留意したうえで、可能な範囲で支援すること
* メディア報道や各種情報発信の内容をアーカイブすること
* 自らの組織（たとえば自治体であれば対策本部等）や地域の記録をアーカイブすること

学会ニュース

会員ウェブ懇談会 (2020/5/26) のお知らせ

COVID-19 に関するアーカイブ活動の呼びかけ (SIG 新型コロナウイルス感染症に関するデジタルアーカイブ研究会)

『デジタルアーカイブ・ベーシックス 3: 自然史・理工系研究データの活用』出版

関連イベント

「絶版コンテンツを活用する ― 公共利用からビジネスまで ―」(2020/5/11)

日本文学展 〜文学とメディアの千年譚〜 文化財リマスターシンポジウム (2020/3/15)

Code4Lib JAPANカンファレンス2020 (2020/6/20-21)

国内外の動向

ジャパンサーチ（試験版）が公開される (2019/2/27)

国立国会図書館デジタルコレクションがHTTP Live Streamingに対応。

琉球政府文書のデジタル画像が、沖縄県公文書館から一部閲覧可能に

求人情報

尼崎市の公文書事業専門職員（正規職員）

実践女子大学短期大学部図書館学課程　専任教員の募集 (2019/8/21 締切)

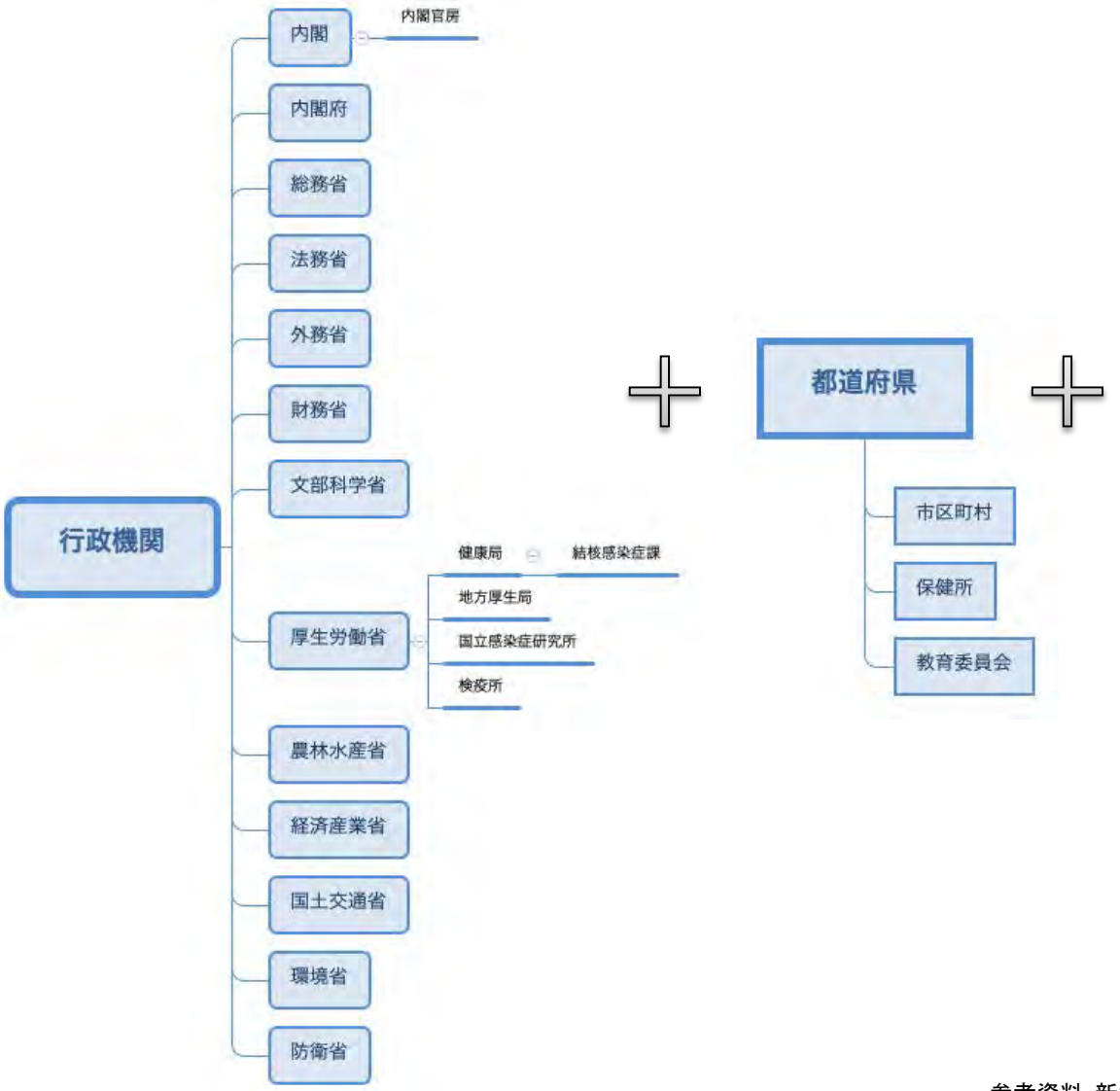
群馬県立女子大学人文社会情報学教員公募 (2018/8/13 締切)

2017年5月に発足
- 分野横断型の学会
- 会員数：約500人

2020年5月20日から
日本国内におけるCOVID-19に関するアーカイブ活動調査のためのアンケート

デジタルアーカイブ学会：http://digitalarchivejapan.org/4941

COVID-19のアーカイブ範囲（案）



新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

①劇場、観覧場、映画館、演芸場
②集会場、公会堂
③運動施設、遊技場等
④博物館、美術館、図書館
⑤自動車教習所、学習塾等
⑥インフラ運営
⑦飲食料品供給
⑧食堂、レストラン、喫茶店等
⑨生活必需物資供給
⑩生活必需サービス
⑪ごみ処理
⑫冠婚葬祭
⑬メディア
⑭金融
⑮物流、運送
⑯製造業全般
⑰オフィス事務全般
⑱企業活動、治安維持
⑲行政サービス

参考資料：新型コロナウイルス感染症対策本部　第34回(令和2年5月14日開催)資料
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/novel_coronavirus/th_siryou/sidai_r020514.pdf

COVID−19のアーカイブ化の課題

・著作権の課題

個人が撮影した写真や手記，映像などの記録，メディア関係の記録，ウェブ情報など，各種情報には著作権（複製権，公衆送信権，肖像権など）があり，権利処理をしなければ，収集や複製，保管等ができない．

・アーカイブ範囲と保存期間の課題

COVID-19をどの範囲までアーカイブするかに関係はするが，一機関でアーカイブ化は不可能に近いと考える．東日本大震災は，自然発生的に50団体以上が参画している．現在，10年が経過で徐々に減ってきているが，国立国会図書館や東北大で永久保存を担っている．収集や保存が可能な機関を募ることが重要である．

・技術的な課題

COVID-19用のメタデータスキーマが現在無く，収集したデータの整理分類などができない状況である．早急に決めないと東日本大震災のように独自メタデータスキーマが乱立する状況になる．